

株式会社エフピコ

(広島県・びんごエコタウンプラン)

国内で唯一エコトレー(再生トレー)を実現し、リサイクルシステムを全国規模で展開

○びんごエコタウンとエフピコ

エフピコは広島県のびんごエコタウンにおけるエコタウン事業者である。

びんごエコタウンは備後地域の4市2町を対象として、平成12年に国から承認を受けた。元々、備後地域は瀬戸内海沿岸の中核的な工業拠点として発展し、鉄鋼、化学等の素材産業が多く集積していた。これら既存の設備や技術を生かして、使用済みプラスチックの高炉原料化、食品トレーのリサイクル、混紡繊維衣料品のリサイクルなどの先進的リサイクル施設の集積を図り、地域内の徹底したゼロエミッション化や、圏域を超えた広域的なリサイクル拠点機能として充実させることにより、「資源循環」の一大経済拠点の形成を目指している。

このびんごエコタウンにおいて、エフピコは元々、本社が広島県福山市にあったことと、エコタウン承認以前から後述するエコトレーに取り組んでいたこともあったため、びんごエコタウン事業者の一翼を担っている。

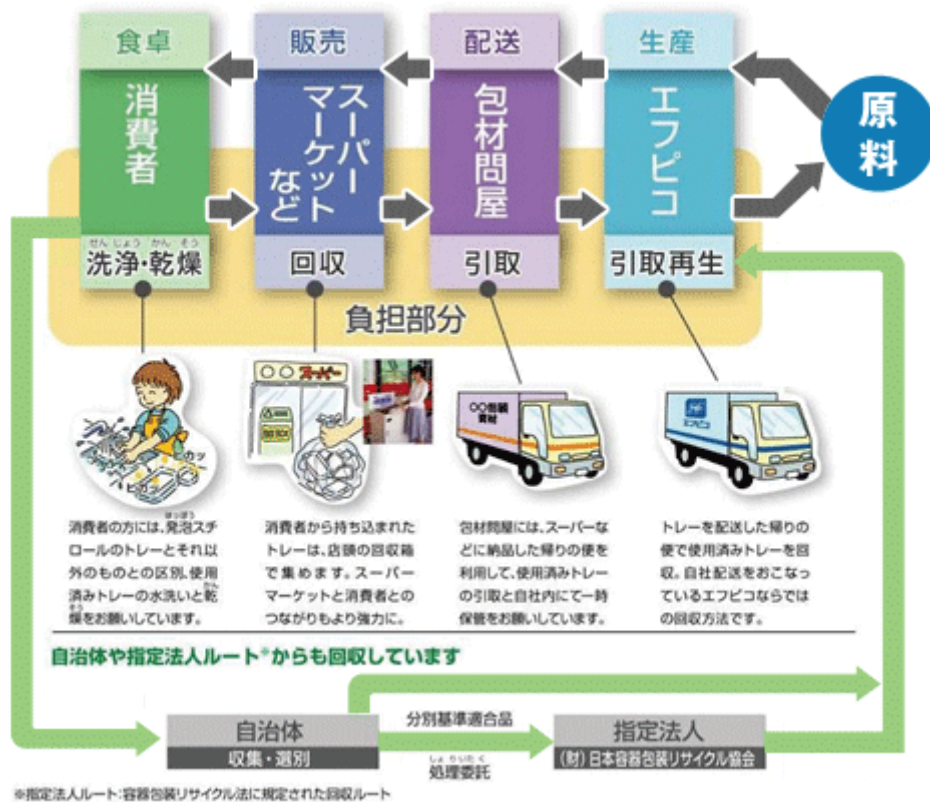
また、エコタウン事業者であることから、「当社がエコタウンの工場見学のモデルコースとなることによって、当社の取組を知ってもらうことには非常に良かった。これによって、新たな使用済みトレーの調達先を開拓するきっかけにもなった(環境対策室 馬屋原氏)」。

このように、エコタウンの整備によって新たな調達先の拡大にも成功している。

○エコトレーを全国規模で展開

エフピコはびんごエコタウン内に拠点があるだけでなく、北海道から九州まで全国に拠点を構える食品トレーの製造・販売を行う会社である。元々、バージン材からの製品の製造・販売を行っていた。しかし、現在では全国で年間に販売する食品トレーが200億枚弱と伸びており、1970年代、使用済みトレーがごみ問題としてクローズアップされるようになった事で、消費者から問題視されるようになった。そのため、容器包装リサイクル法が施行される前の1990年から、エフピコ単独で自社製品の使用済みとなったトレーを回収し、再びトレーにリサイクルする独自の取組を始めていた。

この事業はエフピコが食品トレーを販売するスーパーマーケット等の小売店の回収ボックスから使用済み食品トレーを回収後、全国に9つある選別センターにてトレーの選別を行う。その後、選別されたトレーは全国に3つあるリサイクル工場に運ばれ、トレーとしてリサイクルされる。このリサイクルされたトレーは「エコトレー」と呼ばれ、エフピコの商標登録にもなっている。



(出典) エフピコ HP (http://www.fpcoco.jp/environment/fpcoco_recycle.html)

このようにトレーからトレーを再生するリサイクルシステムを構築し、それを全国規模で展開している企業はエフピコだけであり、食品トレーの材料リサイクル量も国内では最も取扱量が多い事業者となっている。日本容器包装リサイクル協会における使用済み食品トレー（白色トレー）において、多くをエフピコが落札している。また、全国でのエコトレーの販売量は平成20年度の14,100tから平成24年度には18,600tと伸びており、順調に実績を伸ばしている。

販売量が伸びている要因としては、地球環境問題の意識定着と、新しいトレーとの価格競争力をつけてきていることだという。さらに、「現在、回収拠点で地道に環境広報を行い、当社のことを知ってもらう活動をしている。工場見学やCSRレポート等の活動も役立っていると思う。更なる事業拡大の為には、販売量と回収量のバランスが必要となり、多様な回収ルートという意味で、自治体での白色トレーの取組拡大と消費者の意識向上に向けた取り組みが必要である。（環境対策室 井上氏）」と挙げている。

○エコトレーの強み

エコトレーの技術的な特徴としては、再びトレーにリサイクルするため、アルカリ洗剤を用いた洗浄を行っており、さらに、食品衛生法や再生プラスチックガイドラインによる衛生面を担保した高度なリサイクルに強みがあることである。

また、環境負荷削減効果も高く、トレー1kg当たりのCO₂削減量は2.27kg-CO₂/kgとなっている。

さらに、発泡タイプのトレーだけでなく、PETボトルから透明容器へのリサイクル（ボトル to

トレー) も行っている。

さらに言えば、エフピコが元々、食品トレーのメーカーであったため、高度な技術力を持っていたこともトレーのリサイクル事業において大きな強みとなっていると考えられる。



(出典) ㈱エフピコ 会社パンフレット

○今後の展開と課題

今後の展開としては、ペットボトルからトレーへリサイクルする「ボトル to トレー」であるという。「原料調達となる PET ボトルはトレー以上に単価が高いなど調達が難しい課題があるが、市場としては有望で、地上資源の国内循環を実現する事業として、「トレー to トレー」と共に拡大していきたい (環境対策室 井上氏)。

高度なリサイクルを国内で行っていかねばならないが、経済合理性では、人件費が安い中国等の海外に循環資源が流出してしまう。現在は価格だけで海外に流出している状況であり、CO2削減効果や地域連携等の社会的効果を訴えて、国内循環を促進していくことが望ましい。

国内の処理能力に比べて、循環資源は限られた状況が続いており、個別企業では対応に限界がある。そのため、事業活動を支援するような総合的なアプローチが国にも求められる。

【参考】事業者情報

名 称	株式会社エフピコ			
本社住所	〒721-8607	広島県福山市曙町一丁目 12 番 15 号		
資本金、出資金	131 億 5,000 万円			
従業員数	712 人(エフピコグループ:3,977 人)			
設立年月日	1962 年(昭和 37 年)7 月			
URL	http://www.fpco.jp/			
事業概要	ポリスチレンペーパーおよびその他の合成樹脂製簡易食品容器の製造・販売並びに関連包装資材等の販売			
事業所写真				
問合せ先窓口	部署名	環境対策室		
	担当者名	馬屋原 慧准		
	連絡先	電話番号	084-957-2301	
		FAX	084-957-2303	
E メールアドレス		EcoTray-FP@fpco-net.co.jp		